

最終報告書レポート

Lasalle college of the Arts レクチャー及びワークショップ

Lasalle college of the Arts から Visiting Artist としての招聘で Fine art コースの学部、大学院生、卒業生の希望者向けのレクチャー（1日間）とワークショップ（3日間）を行った。

シンガポールの中心地にキャンパスを構える Lasalle college of the Arts は fine arts, design communication, interior design, product design, film, animation, fashion, dance, music, theatre, arts management, arts pedagogy and practice, art therapy, Asian art histories, creative writing 等のコースを持つ芸術系大学である。今回のシンガポールの滞在におけるもう一つの目的である Japan Creative Center での 2 人展に出展するアーティストで同校 Lecturer の Adeline Kueh 氏と Programme Leader の Ian Woo 氏のコーディネートのもとレクチャーとワークショップは行われた。

ワークショップテーマ：見立てとブリコラージュ

コンセプト：私たちの日常は多くのコンテクストに絡みとられている。モノ・形・色の意味は瞬時に 私たちを何らかの考えや行動へと誘導し、それが本当は何なのか、どうあるのかについて考え直すことから疎外する。しかし、そうすることによって、日々円滑に効率的に生きていけるのである。しかし、そうしたコンテクストを解きほぐし、モノを純粹に形態や色として捉え、自ら定めた視点によって再構築することで、新鮮な世界の再発見につながるのではないだろうか。今回のワークショップでは、モノの意味、形の意味、それらを組み合わせる意味を一から問い直すことを試みる。手法:日常のもの（既製品や自然物など、身の回りで見つけたもの）を組み合わせ、ブリコラージュの手法を使い、立体、あるいはインスタレーション作品を作成する。単純な平面作品は除外する。着彩も禁止とする。

学生は、ワークショップに先立ち、身の回りにあるものをいくつか身につくろい、それぞれに持ち寄る。大学、アーティストからも日常にあるものを、材料として提供する。

参加者：大学院生、または学部 4 年生か同等のレベル、レクチャー聴講者約 30 名、ワークショップ参加者 12 名

レクチャーは 120 分と長めに時間が取られ、旧作から時系列順のスライドショー形式とした。随時質問を受け付ける半ディスカッション形式としたため、シンガポールのオーディエンスと自分が共有できているものと説明が必要なものを確認しながらレクチャーを進めることができた。

ワークショップではイントロダクションのあと制作日程 2 日間取ったのち、1 日間でそれぞれの参加者に作品を前にプレゼンテーションしてもらい、フィードバック、講評を行った。立体・インスタレーションを制作するワークショップであったが、同大学は技法やメディアでの専攻分類がないため、個々の参加者の日常的に扱うメディアは多岐にわたる。それぞれの参加者のバックグラウンドや自作とワークショップでの制作物との関連などを重点的にヒアリングすることにより、シンガポールの美術教育で重視されるものや、制作者の興味の方向性などをうかがい知ることができた。



レクチャーの様子



Lasalle college of the Arts, McNally campus

注釈等.....

Lasalle college of the Arts, McNally campus

<http://www.lasalle.edu.sg/>

展覧会「a bird in the garden, a cat in the room」Japan Creative Center のための制作・開催

在シンガポール日本大使館の管轄の文化施設ジャパン・クリエイティブ・センター（以下 JCC）を会場としてシンガポール在住のアーティスト新田友美氏の企画・キュレーションによりシンガポール人アーティスト Adeline Kueh と狩野哲郎の 2 人展を開催した。本展覧会で狩野は日本で制作した近作約 20 点のほか、現地滞在における自然保護区域や動植物や熱帯における都市環境、シンガポールについてのリサーチ、素材収集を元としたサイト・スペシフィックな大型インスタレーション 4 点と新作彫刻 4 点を制作・展示した。会期初日に先立って行われた招待制のオープニング・セレモニーでは現地アート関係者など 70 名弱が参加し交流を図った。会期中に公開制作日とアーティストトーク等のイベントも実施した。

また、展覧会に際して制作した小冊子には企画者の新田氏によるテキストのほか、Singapore Art Museum のキュレーター Louis Ho 氏によるエッセイも寄稿された。



参考: JCC によるオープニング・セレモニーのレポート

<http://www.sg.emb-japan.go.jp/JCC/E-Magazine-Nov-2017-Kano-Kueh.html>

展覧会趣旨:

主催で会場となる JCC は日本政府とシンガポール政府の共同事業として設立され、日本文化の発信をミッションとし、大使館の文化外交の最前線として活動を続けています。このような背景を持つ JCC において本展覧会を実施することで、日本に対する文化的理解・興味を、伝統的視座と現代的視座の両方から喚起することを目指します。

狩野とクーは共に、身の回りにあるモノを組み合わせ、インスタレーションなどの作品として再構築することで、日常の隠された側面を顕在化させるような作品を作り続けてきました。モノを純粋な色と形として取り扱い、ドローイングを描くように再構築することで新しい風景を作り出そうとする狩野。反対に、モノを人々の息づかいを指し示す装置として扱い、変わりゆき、忘れ去られていく景色、日常、歴史、それにまつわる感情を拾いあげるようとするクー。方向は異なるものの、両者は日常のモノを取り扱い、組み合わせることで、潜在的な視点、それによる新たな認識を示すことを目指してきました。本展覧会では、二人のアーティストが「見立て」について考察し、制作したサイト・スペシフィックな作品を発表します。その実践により、「見立て」の概念を現代美術の視点から再解釈することを試みます。

展覧会タイトル: A bird in the garden, a cat in the room

会期: 2017 年 10 月 28 日（土）—11 月 18 日（土）

場所: 在シンガポール日本大使館ジャパン・クリエイティブ・センター

4 Nassim Road, Embassy of Japan in Singapore, Singapore 258372

オープニング・セレモニー: 2017年10月27日(金) 19時～

主催: 在シンガポール日本大使館ジャパン・クリエイティブ・センター

助成: 国際交流基金アジアセンター(平成29年度アジア・フェローシップ)
、National Art Council, Singapore

協賛: 株式会社資生堂、KWIRK、Niizawa Sake Store、Yuka Tsuruno Gallery

参加アーティスト: Adeline Kueh、狩野哲郎

企画・キュレーション: 新田友美

展覧会風景:







展覧会会場 JCC 外観

注釈等.....

在シンガポール日本大使館ジャパン・クリエイティブ・センター

* <http://www.sg.emb-japan.go.jp/JCC/>

展覧会関連公開制作イベント、アーティストトーク

展覧会会期中の11月2日に壁画の公開制作イベントと11月11日にアーティストトークイベントを行った。公開制作イベントではマスキングテープやステッカーを使った壁画コラージュの制作過程を公開しながら、作品についての観客の質問などを受け交流をはかり、アーティストトークイベントではキュレーターの新田氏、出展アーティストのKueh氏と共に1時間ほどかけて会場内の作品を観客とともに回りながら行うギャラリートークの形式で行った。イベント後には大使夫妻、公使の訪問も受け懇談。





シンガポール及びマレーシアの自然保護地区、植物園、動物園等の調査

上記展覧会前後をまたいで、展覧会出品作品及び企画後の作品制作のための自然保護区域や動植物や熱帯における都市環境、シンガポールについてのリサーチを行った。シンガポールは熱帯圏の近隣国と比べて、埋め立てや治水による積極的な国土開発が行われてきた経緯があり、限られた土地を活用するために自然をどうコントロールしていくかといった思想が都市の端々に見受けられる。そうした、世界でもユニークな都市環境を歴史や建築・都市設計、自然保護区などの様々な文脈から調査・踏査し、自らの作品との関わりを探った。人工の造成を動植物にとってのあたらしい環境変化と捉え都市の中の自然を見いだすことをキーとしている。

主な訪問先、調査先:

2017年9月29日講演会: Forests of ASEAN: 30 years dynamic changes of the forests and society at JCC

熱帯雨林の成り立ちと変化についての講演会を聴講。Japan Science and Technology Agency (JST)のMasaki Sato氏による科学技術関連の研究所製制度等のレクチャーののち、京都大学のMamoru Kanzaki博士による30年に渡るASEAN地域での熱帯雨林調査のレクチャー。熱帯雨林の定義ととくにシンガポールとその隣接国の熱帯雨林の成り立ちから、利用と開発、現状に至るまでの包括的レクチャーにより、自身の都市と自然との境界における生態系をキーワードとしたリサーチのための手がかりを、到着後の早い段階で得ることができ良い機会であった。



(イベント写真は JCC ウェブサイトより)

2017年10月1日フィールドワーク: Orchard Rd~ Marina bay (中心市街地の商業地区~経済地区)

滞在先にほど近い中心部の市街区である Orchard エリアから大通りを東進して港湾地区、商業地区の Marina bay エリアまで、主に徒歩での踏査。 徒歩調査は、土地の距離感や街区のスケールの設定、開発の年代や順序を把握するための基本的な方法として、積極的に行っている。 例えばシンガポールの本島の面積は東京 23 区と同程度と言われているが、東京に在住し知っているそのエリアの距離感や移動にかかる時間感覚とシンガポールとは必ずしも一致するわけではない。 徒歩においても、歩行者の優先度や通行可能エリア、自動車専用道路の設計手法などが都市中心部においても異なるため、同程度の距離を徒歩移動する場合も迂回や待機時間などの要因で、シンガポールのほうがより所要時間が多い。 高層ビルや大規模建造物の数や密度は当該エリアではそれほど差がないが、東京は地下空間や高層建造物密集地における空地利用などがより効率化されている。 裏返せばシンガポールのケースでは高層、大規模建造物の密集するエリアにおいても空地や未利用の余白、余地を発見することができ、そういった場所が野生動物や植物等に活用されている事例を知ることができる。

2017年10月3日、11月6日フィールドワーク: Jurong Bird Park (公営野鳥公園)

東南アジア圏でも最大の鳥に特化した動物園のひとつ。 熱帯の鳥を中心に 500 種 4000 羽の鳥を飼育しているとされている。 特に温暖な気候と広い敷地を活かし、複数の種類の鳥が放鳥飼育されているオープン型のケージに観客が入る展示を多く取り入れている。 日本でもオープン型ケージでの熱帯鳥類の飼育は上野動物園や井の頭動物園 (現在は老朽化のため閉鎖) などをはじめ幾つか例があるが、観客の動線が一方に制限されている場合がほとんどで、冷暖房等の空調管理の必要もあってケージの規模はシンガポールのほうがかなり大きい。 鳥類と植生の観察のほか、動物の飼育・飼養についての考え方やアプローチの違いなどを読み取るためのリサーチの一環として訪問した。



Jurong Bird Park (公営野鳥公園)

2017年10月4日フィールドワーク: Dragon Kiln (登り窯)、Jalan Bahar Clay Studios 及び Jalan Bahar (西部工業地区) 視察

先出の Lasalle 芸術大学のワークショップに参加した陶磁を用いたアーティスト Kat Kng 氏の紹介でシンガポールに現存する2つの登り窯と陶芸工房を訪問、見学した。陶芸工房の講師で陶芸家の Hiroko Mita 氏により、工房のシステムや設備の案内を受け、併設されている陶芸家のスタジオを見学した。シンガポールは法律上住宅地での火気の使用制限が厳しく電気窯以外の実際に火を使用する生産活動(工場なども含む)が禁じられているため、陶芸等を行うためには郊外の工業エリアにスタジオを持つほかない。この工業エリア近隣はごみ処理施設などのなど大規模な工場も増えており、以前はより多くの陶芸工房があったこのエリアも年々開発が進み状況が変わっているとのことである。

2017年10月5日フィールドワーク: Changi Boardwalk (北東部沿岸の遊歩道、釣り人が集うエリア) 東西約2.2km

北東部チャンギ国際空港の裏手の沿岸エリア、軍の施設の裏手に海沿いの遊歩道が設置されている。シンガポールは治水や開発の関係で水辺は管理された公園・商業エリアか、湿地帯などの立ち入り禁止区域を伴った保護エリアであることが多い中、このエリアは比較的海の近くにアクセス可能な場所となっている。市中に釣具店などを見かける割には釣り人や漁師を見かけることが少なく、取材のために訪問した。小型ボートのマリーナ近くで釣りをしていた現地の男性に話を聞いたところ、ウツボやエイなども岸から釣れるとのことであった(どちらもシンガポールの海鮮 BBQ で人気の高級魚)。ボードウォーク近くでは海鳥のほかミズオトカゲ等も見かけることができるがカラスの姿は見ない。後日調べたところによると、戦後の鳥類図鑑にはカラス記載があったが、ある時期以降にカラスの駆除に注力し現在は余り見かけることがなくなったとのこと。

2017年10月7日フィールドワーク: Ang Mo Kio Bird Singing Club (中部集合住宅エリア、シンガポール最大のコンペティションバードのクラブ) 視察

シンガポールの中華系コミュニティの男性に伝統的に人気のある競鳥、鳴き合わせ、ハトのレースなど鳥に関するコンペティションのクラブのため、鳥かごのハンガーやクラブハウスが公営住宅内の公園に整備されている。鳥用品店なども周辺にあり、5~6種類の鳥ごとに部門を分け、週末の土日の早朝から昼にかけて会員が自分の鳥を持ち寄り展示と情報交換など社交を行っている。集まる人々は近隣からのみではなくカゴを持って車や電車、バスなどを乗り継いで集まり、多くの鳥が展示されているさまは壮観だった。クラブハウスでは毎月行われるコンペティション大会の情報などが交換されている。



Ang Mo Kio Bird Singing Club（中部集合住宅エリア、シンガポール最大のコンペティションバードのクラブ）

2017年10月7日、11月10日フィールドワーク: MacRitchie Reservoir（中部自然保護区エリア）の踏査。約8km

2017年10月8日フィールドワーク: Mt. Faber Park（海拔105mの国土最高地点のひとつ）及び Henderson Waves（地上36mの橋）

2017年10月13日フィールドワーク: River Valleys（南部住宅エリア）シンガポール川が暗渠になる部分の視察

2017年10月19日フィールドワーク: Bukit Batok Nature Park（中部、旧フォード工場に隣接した国土最高地点近くの自然公園）

2017年11月5日フィールドワーク: Sungei Buloh Wetland Reserve（北部Johor水道沿いの湿地保護区）

2017年11月10日フィールドワーク: Bishan-Ang Mo Kio Park（中部エリア水域のある都市自然公園。カワウソの目撃情報あり）

シンガポールにおいて重要な地形の湿地を中心に Reservoir, Wetland Reserve など多数の保護区エリアが指定されている。限られた国土の中の面積の一定を占めるそれらのエリアを踏査し、野生動物と植生の調査を行った。保護区のエリアにおいてもシンガポールの熱帯植物は Primary Forest (原生林) と呼ばれるものではなく、すでにある程度人間との関わりがあって変化してきた植生となっている。自然をいかに管理し整備するかといった考え方は、保護区と都市を単純に切り分けて考えることのできない国土の状況から成り立ってきたものであり、国家的行事の当日に晴天であるために事前に雨の条件を作り出しあらかじめ雨を降らせておくといった対応からも読み取ることができる。実際多くの wetland reserve はシンガポール川の水源地そのものであり、治水、水害の対策の観点からも保護区の周辺に水路や水門などが設けられ、コントロールされているさまを目にすることとなった。



MacRitchie Reservoir (中部自然保護区エリア)



MacRitchie Reservoir (中部自然保護区エリア)



Sungei Buloh Wetland Reserve (北部 Johor 水道沿いの湿地保護区)

2017年11月7日フィールドワーク: Singapore Botanic Gardens (旧植物園)

2017年11月9日フィールドワーク: Gardens by the Bay (新植物園)、Marina Barrage (シンガポール川河口)、Gardens By The Bay East

旧植物園は160年ほど前に設立されたアジアでも古い部類の植物園で、英国統治時代の建造物や様式の影響を色濃く残した植物園で、ところどころに見られる熱帯の巨樹のほか、原生の蘭の多様な品種を栽培している蘭園がハイライトとなっている。対して、現在も新規エリアを造成中のアジア最大の敷地を誇る新植物園はプロジェクションマッピングや音響、ライティング、霧の演出などのエンタテインメント性の高い施設となっており、植物への学術的アプローチというよりも植物のテーマパーク的な方向性で作られている。近隣が商業エリア、高層建造物の多いMarina Bayエリアであることもあり、植生と都市のシンガポールの共生意識を知ることができた。

2017年11月8日フィールドワーク: Singapore Zoo 及び River Safari

2017年11月15日フィールドワーク: マレーシア Zoo Johor 及び Johor 水道周辺

シンガポール中央部にはZoo, River Safari, Night Safariが隣接されたテーマパークエリアがある。世界の様々なエリアの動物を集めたスタンダードな展示の動物園、世界の大河に生息する水辺の動物を展示したRiver Safari、夜間の動物の行動をサファリパーク形式で見学できるNight Safariがある。動物園の世代としては第2世代と第3世代の中間の設計であり、動物をジオラマ的な生息環境の再現ケージで展示する手法が多く取られていたように思われる。比較のためシンガポール北部対岸のマレーシア・ジョホールバルの動物園を訪問した。Zoo Johorは第1～2世代の展示手法で野生から捕獲した個体そのものの実物展示という側面で、生息環境の再現などには注力していなかった反面、シンガポールの管理意識との違いで動物との距離を近く設定しているといった違いが見受けられた。

シンガポールのアートスペース、美術館、博物館、素材調達等の調査

滞在期間の全日程にわたって、シンガポールのアートスペース等に訪問、アーティスト、美術関係者等からのヒアリングなどを通じて当地の美術状況などの調査を行った。滞在初期にワークショップ及びレクチャーを行った Lasalle college of the Arts のネットワークのほか、滞在先ホストのアーティスト Susanne Paulli 氏からの紹介や本展覧会のキュレーターの 新田友美氏の協力などを通じてコンタクトを取った。

主な訪問先、調査先:

2017 年 9 月 26 日: 在シンガポール日本大使館 Japan Creative Center (JCC) 展覧会会場下見、杉田所長、松永副所長、プログラムマネージャー副田氏と懇談。

今回の滞在の主目的である、展覧会の会場、在シンガポール日本大使館ジャパンクリエイティブセンターは自主企画のほか日本およびシンガポールの団体及び個人と連携して文化事業、イベントを開催している。今回の展覧会の担当をいただいた職員の方々と顔合わせと展覧会のための打ち合わせ、スペースの見学などを行った。

2017 年 9 月 30 日: Singapore Art Museum キュレーター Louis Ho 氏によるインタビュー

アーティスト Adeline Kueh 氏の紹介で、SAM キュレーターの Louis Ho 氏のインタビューを受けた。展覧会のリーフレット用のテキストを執筆するための取材をかねている。インタビューの中で Adeline 氏と自身の作品感についてやシンガポールのコンテンポラリーアートの成立背景、現代のシーンと政府の文化支援政策についてなど幅広く聞くことができた。Louis 氏はその後東京にリサーチに行く予定があるとのことで、よい情報交換の機会となった。

2017 年 10 月 5 日: Susanne Paulli 氏のスタジオ訪問、工業地区の一角

シンガポール在住のデンマーク人アーティストであり、今回の滞在先のホストである Susanne Paulli 氏のスタジオを訪問した。人口密度の高いシンガポールでは中心部での家賃の相場も高く、アーティストは工業エリアのビルなどのスペースをスタジオとして利用することも多いとのこと。市街地でアーティストが多いエリアや、画材や資材の調達先や状況など、他国の制作の状況を知りつつ、シンガポールの地で制作をしているアーティストの視点は、今回の現地制作のうえで助けとなった。

2017 年 10 月 6 日シンポジウム聴講: Lasalle MA Fine Arts Post Graduate Research Symposium

ラサール芸術大学の大学院生およびゲスト講師によるそれぞれの制作のプレゼンテーション。シンガポール国外からの留学生の比率の多いラサール芸術大学では、作品の制作、成立の背景を自分と異なる文化背景を持つ他者に説明する必要があり、学生の自分からそのトレーニングを積むことは自国外で作品発表をしていくうえで重要なトレーニングと考える。Visiting Artist として聴講した立場からは限られた時間のプレゼンテーションを聞き、的確な講評、批評をするための試行は、シンガポールでの展覧会の観客のリアクションのシミュレーションとなった。

2017 年 10 月 11 日: Gillman Barracks (ギャラリー地区) 訪問。CCA Singapore、Mizuma、Ota Fine Arts など。

英国統治時代の建造物をリノベーションしたギャラリー地区の訪問。前出のアーティスト Susanne Paulli 氏とアーティスト Chilsian Chiu 氏と訪問。美術館やギャラリースペースのスケール感は各国のアーティストの作品スケールに密接に関係する。コマーシャルギャラリースペースは日本と近いスケールの印象を受けた。同敷地内にある CCA Singapore は公設のコンテンポラリー・アートセンターで国内外からのアーティストをレジデントとして受け入れ、展覧会を企画している。ギャラリーとも連携をとった企画も少なくないようで意欲的なアートセンターとして機能していた。

2017年10月19日: Former Ford Factory (National Archives of Singapore 占領下の歴史資料展示)

シンガポールの国家成立から現代までの歴史資料展示館。 英国統治時代と、戦時中の日本軍占領下、独立から現在までのセクションで資料展示がされていた。

2017年10月30日: Singapore Tyler Printing Institute (STPI 展覧会、AIR を企画運営する版画工房)

アメリカの現代美術のプリンティングの巨匠 Tyler 氏の工房のシンガポール支部を祖とする版画工房と展示ギャラリー。現在はシンガポール政府の支援と、自主企画のアーティストとのコラボレーション、招聘による版画制作とその販売により運営費を捻出している。 地下の大空間に広がる工房は最大級のプレス機や製版機から紙の制作、レーザー刻印、3Dプリンティング機器など広義のプリンティングにかかわる設備が揃えられており、招聘アーティストの制作する作品も従来の版画の概念から外れるようなものも多い。 訪問の際にはスタジオにテクニシャンとして在籍する日本人技師の方に案内していただき、設立から数十年に渡り工房の責任者を務めた日本人技師の方にも話を伺い、シンガポールでクオリティの高い作品を制作するまでの過程をお聞きした。

2017年11月19日: Hermes Gallery Singapore レセプション

NY 在住の日本人アーティスト安部典子氏の個展レセプション。 今回の個展に際してシンガポールに滞在していたところ、交流を持つ機会がありレセプションに参加した。 エルメスのブティック最上階に商品の売り場から独立したギャラリースペースがあり、定期的に展覧会が行われている。 前出の STPI のディレクターが展覧会企画に関わっており、STPI に滞在したアーティストとも連携の取られた展覧会も多々行われている。

今回の安部さんの展覧会は、シンガポールと日本の学生の教科書を使ったワークショップに関連した展覧会で、社会的なテーマをビジュアル的に変換した試みの展覧会だった。 作品の受け取られ方やキーとなる部分の違いについて意見を交換した。

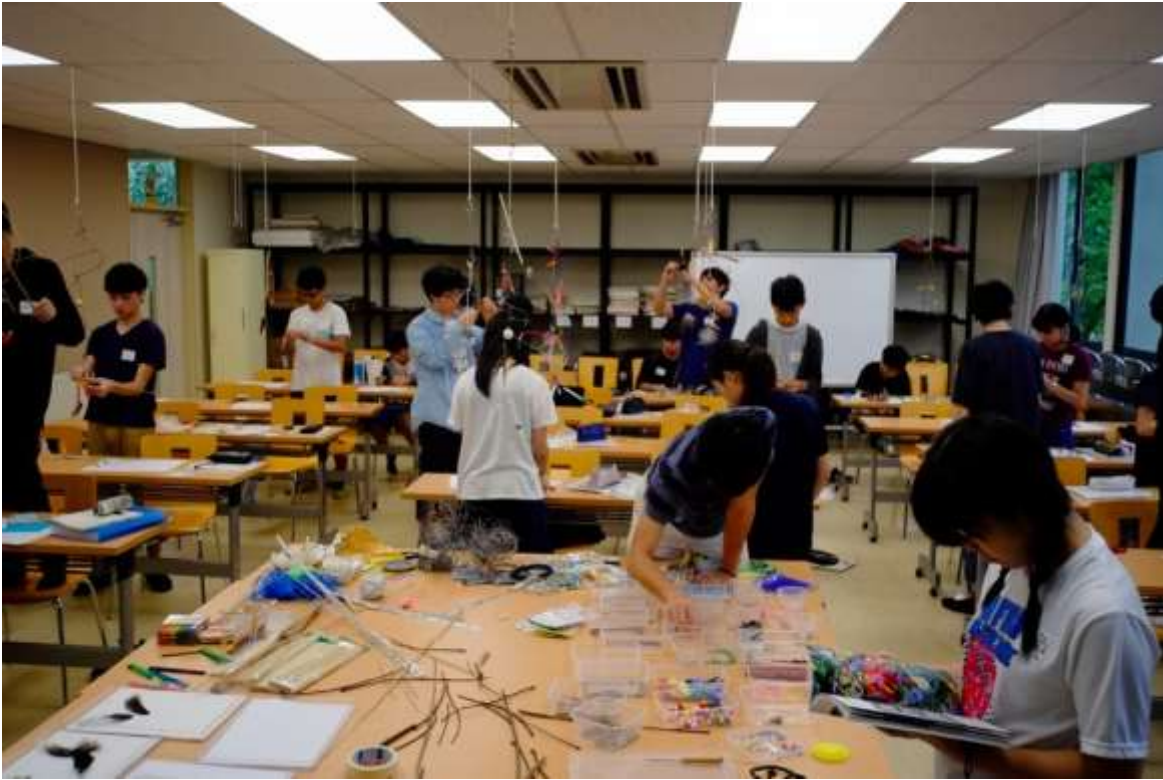


CCA Singapore

日本人学校（高校）早稲田渋谷シンガポール校、美術特別授業

在シンガポール日本人向けの高等学校、早稲田渋谷シンガポール校で高校1年生向けの美術特別授業を行った。 展覧会に訪問いただいた同校美術科担当の先生から依頼いただいた。 日本人作家の現代美術と触れ合う機会が貴重だということで、展覧会に出展しているいろいろな素材を用いたモビール彫刻の制作を高校生向けにアレンジしたワークショップ形式で100分の授業で制作～講評を行った。





特別授業の様子

注釈等.....

Waseda Shibuya Senior High School in Singapore

57 West Coast Road SINGAPORE 127366



早稲田渋谷シンガポール校ホームページより

* <http://www.waseda-shibuya.edu.sg/>

フェローシップ活動を終えて

Adeline Kueh 氏との 2 人展を中心とした、一連のワークショップ、リサーチを通じて、自身の近年の制作テーマと密接な関係をもつ熱帯圏の自然、都市環境、生態系のリサーチを無事終了した。今回は現地の美術大学 Lasalle collage of the Arts の協力も大きく、幅広い年代・キャリア・バックグラウンドを持つ現地アーティストと知り合う機会を得てより充実したリサーチを実現できたことも良かった。滞在国のアートの状況をリサーチする場合と生態系のリサーチをする場合では、異なった動き方をする必要があるが、展覧会など自身の実際の作品を見せる機会を同時に持てるレジデンスとなると、より容易に情報を得ることができるように思う。本年は同一テーマの生態系に関するリサーチのフィールドを北方圏（フィンランド及びノルウェー）に移し継続、比較する予定である。

シンガポールの展覧会の一部の出品作品とアーティストトークを横浜市にある Daily Supply Shop SSS にて展示および開催予定（近日中）